

## 輸血部ニュース

発行：広島大学病院 輸血部

編集： 輸血部長 藤井輝久

内容に関するお問い合わせ：

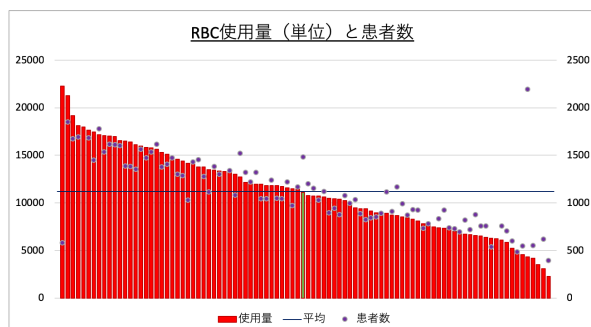
5581（輸血部長室）または teruchan@hiroshima-u.ac.jp

### 本院の輸血用血液使用量は？～今年度の大学病院輸血部会議の資料から～

平成 30 年度全国大学病院輸血部会議が、10 月 19 日に青森市で開催されました（主管校：弘前大学）。例年この会議に合わせて、全国の大学病院輸血部（計 95 施設、国公立、分院含む）に対し業務量アンケート調査が行われ、その内容も発表されました。本院は他大学病院に比べてどの位置にあるのか、大変興味深い資料になっていますので、みなさんにお知らせします。

#### 1. 赤血球製剤

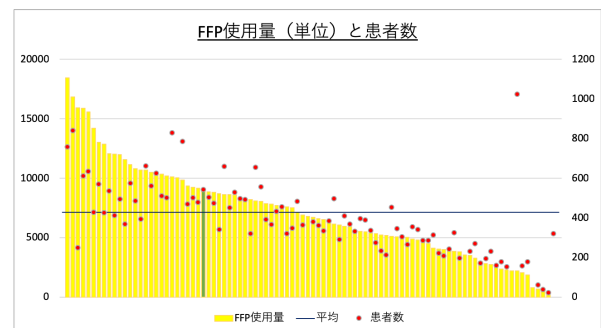
2017 年に、大学病院全体で 99,574 人の患者に対して 1,048,434 単位の輸血がされています。1 人当たりの使用量は昨年より減少しました。大学病院の平均使用量は 11,191 単位であり、本院は 11,102 単位、全体の 47 位の使用量でした（グラフ内棒が使用量（左軸）、点が患者数（右軸）、緑の棒が本院、横線が平均値、以下同）。なお 1 位は昨年に引き続き大阪大学医学部附属病院で、22,262 単位の使用でした。



#### 2. 血漿製剤（FFP）

全体で 34,736 人に対して 687,750 単位が

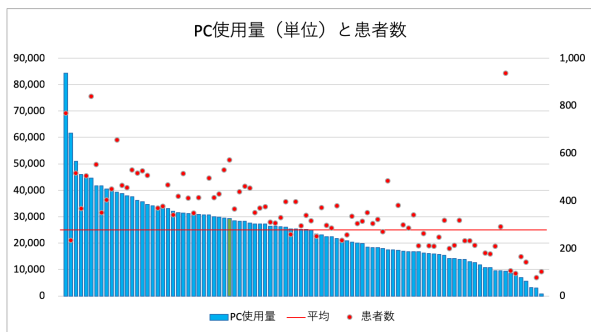
使用されており、偶然にも昨年と全く同じ数字でした。大学病院の平均使用量は 7,117 単位であり、本院は 8,880 単位、全体の 27 位の使用量でした。本院は昨年より使用量は減ったものの、順位は 2 つ上昇しました。FFP は血漿交換をした場合には、どうしても大量使用となります。しかし、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）の血漿交換では日本一の奈良医大でさえも、今回は 28 位と本院より使用量を減らしてきています。1 位は昨年と同様、東京女子医科大学病院の 18,442 単位でした。



#### 3. 血小板製剤

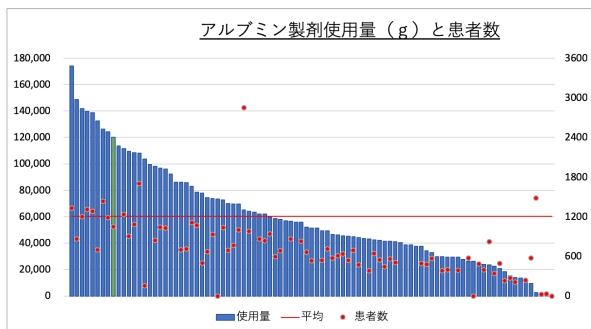
全体で 31,949 人に対して 2,350,009 単位が使用されていました。昨年に比べ患者数は微増していますが、使用量は約 50 万単位減少しており、大学病院における血小板製剤の使用削減が図られているようです。平均使用量は 25,034 単位であり、本院は 29,370 単位、全体の 33 位の使用量でした。昨年に比べ患者数の増加もあり、使用量は約 4,000 単位増加、順位も 8 位上がりましたので、全国の趨勢に逆

行しています。しかし、輸血患者数(グラフ内赤点)だけ見ると全国第3位でもあるので、1患者当たりの輸血使用量は少ないとも言えます。1位はこちらも昨年と同じ九州大学病院で、84,340単位でした。



#### 4. アルブミン製剤

アルブミン製剤は、まだ薬剤部管理の病院もあるため、正確な患者数が把握できていない施設があり、全体数は不明です。全体使用量は5,618,886gが使用されていましたが、昨年より約50万g使用量は減少しています。平均は60,429gでした。本院は120,188gで平均の約2倍、昨年より微増し、順位も全体の10位から9位と1つ上げました。なお全国第1位は、東京女子医科大学病院の174,111gでした。昨年1位の東京大学医学部附属病院(使用量255,781g)は、126,492.5gと使用量を半減させ全体の第7位となっています。1年間でこれだけの変化をもたらすことができたのは、輸血部による厳しいチェックのおかげではないかと推察されます。

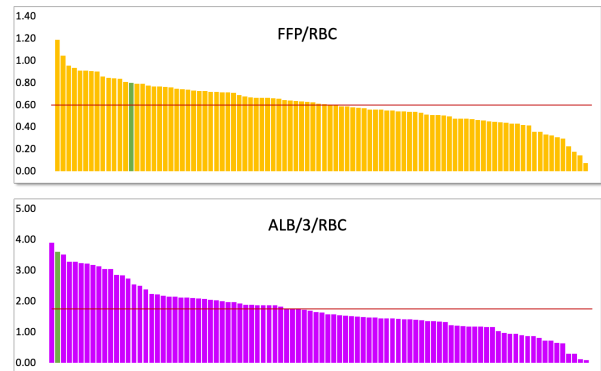


ここまで見ると、相変わらず本院は他院

に比べて FFP やアルブミンの使用量が多いことが分かります。特にアルブミン製剤使用量は、ここ3年126,703(11位)→117,198(10位)→120,188g(9位)と横ばいで、全国の“アルブミン使用削減”の流れに乗っていない、と言えます。

#### 5. 輸血管理料適正使用加算関連

本院は、輸血管理料の適正使用加算(輸血・アルブミン使用患者1人につき、120点/月)が取得できていません。その理由は、FFP/RBC比が<0.54、Alb/3/RBC比<2.0(いずれも年間で計算)が達成できていないからです。



大学病院全体の平均は、FFP/RBC比が0.60、Alb/3/RBC比は1.75となっており、Alb/3/RBC比だけなら、適正使用加算取得の条件を軽くクリアしていることとなります。しかし、本院はそれぞれ0.80、3.61で、特にAlb/3/RBC比は、岡山大学に続きワースト2位となっています。患者によっては、結果として過剰使用が致し方ない場合もあるかも知れません。しかし、それは全国の他の大学病院も同じ実情を抱えていると思われ、本院だけ特殊な状況ではないはずです。診療科におきましては、こういった情報をご参照の上、より一層適正な輸血/アルブミン使用を推進していただきますようお願い申し上げます。